

# 令和5年第7回定例教育委員会会議録

1. 開催日時 令和5年7月26日(水)  
午後1時30分～午後4時40分
2. 開催場所 柏原市役所 2階 多目的室2-1、2-2
3. 出席した委員 教 育 長 新 子 寿 一  
教育長職務代理 田 中 保 和  
委 員 近 藤 温 子  
委 員 西 村 弥生子  
委 員 太 田 貴 之
4. 出席した職員 教育部長 桐藤英樹 教 育 監 中平好美  
教育総務課長 栗田聖子 事務局教育総務課 塩谷行由  
指導課長 小室吉昭 指導主事 大内隆  
指導主事 野本秀徳 指導主事 西村あすか  
指導主事 政埜敏男
5. 議事案件  
  
議案第27号 令和6年度柏原市立中学校使用教科用図書の採択について  
議案第28号 令和6年度柏原市立小学校使用教科用図書の採択について
6. 報告事項
7. 会議録の承認及び会議の要旨

新子教育長：それでは、令和5年第7回定例教育委員会会議を開会いたします。本日の会議録署名委員は、田中委員でございます。よろしくお願ひします。次に、事前に前回の会議録、お送りさせてもらっておりますが、ご意見等ございましたらお願ひいたします。

委員全員：なし。

新子教育長：よろしいでしょうか。ありがとうございます。ないようですので、会議録は承認することといたします。

それでは、早速議事案件に入っております。本日の議案につきましては2件でございます。教科用図書の採択についてでございます。前回もそうでしたけれども、かなり時間をかけてまとめていきたいと思っております。ですので、教育委員の皆様方と関係課の方で進めてまいりたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。本日、小学校の教科用

図書については13の教科書採択になりますが、今日一日では当然のことながら、時間的にも難しいという風に思います。そのような関係から、前回もそうでしたけれども、臨時の教育委員会会議を開催させていただこうと思いますが、よろしいでしょうか。ご意見なければ。

新子教育長：ありがとうございます。そうしましたら、早速ではございますが、教科用図書採択の方に移りたいと思います。

(出席職員入れかわり)

新子教育長：審議の進行上、まず、議案第27号令和6年度柏原市立中学校使用教科用図書の採択についてより審議をいたします。小室指導課長より説明をお願いいたします。

小室課長：それではご説明いたします。まず、本日の資料を確認させていただきます。本日の資料ですが、「次第」、ホッチキスどめの資料「令和6年度使用教科書の採択事務処理について（通知）の写し」「令和5年度使用小学校教科用図書一覧」、その裏面に「令和5年度使用中学校教科用図書一覧」、ホッチキスどめの資料「令和6年度使用柏原市立小学校教科用図書の選定について（答申）の写し」、ホッチキスどめの資料「令和6年度使用教科用図書展示会ご意見」、ホッチキスどめとした「教科ごとのメモ用紙」、の6点をクリップどめにしております。ありますでしょうか。小学校教科用図書については、後程ご審議いただきます。

中学校教科用図書の採択については、資料にございます、令和5年3月付で文科省より通知がありました「令和6年度使用教科書の採択事務処理について」をご覧ください。2ページめをご覧ください。その中の、1.各学校段階における令和5年度の教科書採択について「(2)中学校用教科書の採択について」の中で、次のように述べられております。「令和4年度に採択したものと同一の教科書を採択しなければならないこと。ただし、無償措置法第14条及び無償措置法施行令第15条の規定に基づき、無償措置法施行規則第6条各号に掲げる場合は、異なる教科書を採択することができること。」。従いまして、本市におきましては、令和4年度採択における調査研究内容及び学校と子どもたちの実態を鑑み、クリップどめの資料にもあります「令和5年度使用中学校教科用図書一覧」のとおり、現在使用の教科書をそのまま使用することが望ましいと考えております。ご審議お願いいたします。

新子教育長：はい、ありがとうございます。今、説明がございました、特例を除いては、現行の教科用図書を使用するということでございますが、学校の実態、子どもたちの様子、そういう風なことを、調査研究の中から考えまして、本市におきましては、現在使っている教科書を使用するということでございます。よろしいでしょうか。

委員全員：異議なし。

新子教育長：はい、ありがとうございます。それでは、議案第27号令和6年度柏原市立中学校使用教科用図書の採択については、原案通り承認することといたします。

続いて、議案第28号令和6年度柏原市立小学校使用教科用図書の採択についてであり

ます。去る5月16日に教育委員会から、柏原市立小学校・中学校教科用図書選定委員の委嘱を行いまして、委員の皆様を選定について諮問させていただいたところでございます。それは、皆さんもご承知のことだと思っておりますが、本日その答申をいただくことになっておりますので、まずはその答申を教育監からお願いいたします。

中平教育監：それでは、諮問いただきました件について答申をいたします。令和5年5月16日付け柏教委第162号で諮問のありました「令和6年度使用柏原市立小学校教科用図書の選定について」について答申いたします。以上でございます。

新子教育長：ありがとうございます。その他、指導課長より補足がございましたらお願いいたしますが、よろしいでしょうか。

小室課長：教育監の方から。

中平教育監：本日お渡ししています資料に、答申の写しを付けております。その2ページめ以降が答申の内容でございます。この内容につきましては、選定委員会における審議により作成をしています。先ほど教育長よりご説明がありまして、5月16日に、まず選定委員会を立ち上げました。専門的で適正な調査を行うため、各教科につき3名の調査員をおいて、調査・研究を行い、その結果を選定委員会に報告いただきました。また、柏原市の教育研究会と各小学校からのご意見も報告いただき、選定委員会の資料といたしました。併せて6月5日から7月3日にかけて教科書の法定展示と法定外展示を行いましたところ、のべ7名の閲覧者があり、その方々からご意見を頂戴いたしましたので、それにつきましても選定委員会の参考資料とさせていただきました。そして7月4日に開催されました第2回選定委員会では、事務局による説明の後、委員全員で全ての教科用図書について審議を行いました。

教育委員の皆様におかれましては、ご多忙の中、事前に全発行者の教科書、教科書会社作成の教科書編修趣意書、大阪府教科用図書選定審議会の資料、柏原市教科用図書調査員からの報告書及び各教科研究部、各校からの意見書に目をとおしていただいていると存じておりますが、本日は、選定委員会での意見も含めた事務局の説明をお聞きいただきました後、採択に関して審議を行っていただきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

新子教育長：ありがとうございます。7月4日の第2回の選定委員会、本当に、朝から、もう昼は終業のチャイムが鳴り終わっても、しっかりと選定していただいたと、時間をかけて、非常に長い時間でしたが、ありがたく思っております。それでは、小室指導課長、よろしく申し上げます。補足あれば。

小室課長：はい、一部補足させていただきます。これからのご審議の資料としましては、ホッチキスどめの「令和6年度使用柏原市立小学校教科用図書の選定について（答申）写し」および「教科書センターで閲覧していただきました市民の意見書をまとめた資料」と、「教科書見本」お一人につき1セットをご用意しております。また、先日すでにお渡ししておりますが「調査員からの報告書、柏原市教育研究会及び各学校からの意見書、大阪府教科用図書選定審議会の資料を綴ったファイル」も本日お持ちいただいておりますので「教科ごとのメモ用紙」と共に必要に応じてご活用ください。

教科書センターのご意見につきましては、後ほど、様式「教育委員会会議教科書センターご意見」に押印或いはサインをお願いいたします。

それではこれより事務局から選定委員会でのご意見等を含めて教科ごとに各者の説明をさせていただき、そのあとご審議いただきたいと思います。なお、発行者につきましては、目録にあります略号で呼ばせていただく場合もございます。以上でございます。

新子教育長：ありがとうございます。それでは、早速、教科書採択に入って参ります。まず、算数でございます。大内指導主事、よろしく申し上げます。

大内指導主事：はい。それでは、算数について説明いたします。算数につきましては、東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、啓林館、日本文教出版の6者でございます。

まず、「目標、内容の取扱い」についてです。大阪府の選定資料および調査員によると、各者とも各領域に偏ることなく適正かつ正確に取り扱われております。特徴的なものとして、日本文教出版の5年生29ページをご覧ください。「『使ってみよう』や『算数ジャンプ』、『なるほど算数』等で学習したことを生活の中で生かすことができるよう取り扱われている」と記載があります。また、「課題のヒントとなるコメントが分かりやすく、全体的に見やすい」との意見が学校よりあがっています。次に東京書籍の4年生の60ページをご覧ください。「指導時間等を考えると、学ばせたい内容を、時間をしっかり取って学ばせることができる」と学校より報告がありました。

次に「人権の取扱い」についてです。大阪府選定資料では各者とも「ユニバーサルデザインの観点から、フォントや配置、色、図などが工夫され、すべての児童にとって扱いやすいよう配慮されている」と書かれていました。大日本図書3年生の3ページ、それから啓林館6年生の1ページをご覧ください。「キャラクターに外国にルーツの持つ児童を設定するなど、人権に配慮がされている」との意見が調査員よりありました。

次に「発達段階への考慮」です。東京書籍4年生下巻の36ページをご覧ください。調査員より「導入がていねいで、説明が詳しく書かれている」と報告がありました。また学校からは「登下校の『時間が長い児童が多いことを考えると、荷物が軽くなるので上下に5年生まで分かれているので良い』という意見もありました。教育出版6年生の20ページをご覧ください。「ふりかえりがマンガ形式になっており、児童へのハードルが低く感じる」と学校より報告がありました。

次に「組織・配列」についてです。調査員より啓林館は「小単元が充実していて、論理的思考を高めるよう配列が工夫されている」と報告がありました。大日本図書は2年生で「長さ、かさ、時刻と時間の順で学習することになっており、10を使った単位変換を学習した後、60を使った単位変換を学習するため、児童にとって分かりやすい配列になっている」と学校より意見がありました。

次に「学び方の工夫」についてです。教育出版の6年生88ページをご覧ください。「挿絵や写真は、興味や関心をひき揭示の仕方も工夫されている」という意見が調査員よりありました。学校図書の5年生上巻12ページをご覧ください。学校から「めあての文言が疑問文（～のかな）となっており、まとめと関係付けやすい」という意見もあがっております。

次に「補充的な学習・発展的な学習」についてです。啓林館の6年生82ページをご覧ください。「適応問題が多岐にわたっている」という報告が学校よりあがっております。日本文教出版の5年生266ページをご覧ください。調査員からは日本文教出版について「巻末の『算数マイトライ』という問題は、内容に応じて3ステップで構成され、習熟度に合わせて課題に取り組めるようになっている」という意見がありました。

次に「幼小中一貫教育の観点」についてです。調査員より各者とも「中学校数学を意識した内容になっている」という報告があがってきております。これに加えて日本文教出版は調査員より「1年生が最初に手にする『しょうがくさんすう1①』では、就学前の遊びや生活と算数との関係性・連続性を絵本仕立てで示し、無理なく算数の世界に入れるよう工夫されている」という意見もありました。

最後に選定委員会の意見を報告いたします。

まず、啓林館は「ノートをつくろう」が明確かつシンプルに表現されている。学校図書はサイズが大きいが、教科書とタブレットを机の上に置くとどうなのか、という意見がありました。1年生の教科書では啓林館、東京書籍、大日本図書の3者にサイズの異なる別冊があり、書き込み式になっている、下敷きが入れやすい、紙の質もちがって書きやすい、という意見がありました。九九を学習する単元では、どの段から教えるのかでちがいがあある。「時こくと時間」を学習した後なので、系統性や教えやすさ、生活との結びつきを考えると、5の段から学習した方が良いのでは、また、東京書籍では「生活にいかそう」の学習で、時計を見ながら考えさせやすいのではないかと報告がありました。10のかたまりやブロックの種類が啓林館だけちがう。算数の教材は教科書会社に合わせて買っている学校が多い。10の構成で考える点も考慮したらどうか、ブロックと教科書がちがっていると混乱するのではないかと、という意見がありました。5年生の面積の単元では、啓林館は三角形から平行四辺形を学び、東京書籍は四角形から三角形へつなげて学ぶ点でちがいがああった。現場としては既習事項の長方形から進めた方がやりやすい印象がある。算数の中で九九が今後の学習でもネックになり、つまづきにつながりやすい。5の段から扱っている点を考えて、東京書籍、啓林館、学校図書、教育出版の4者から絞り込み、サイズや別冊、上下巻の扱い、専門性、発達段階の配慮等を加味していくと、啓林館と東京書籍の2者が柏原市の教育に合っているのではないかと、という意見がありました。

以上で算数についての説明を終わります。

新子教育長：はい、ありがとうございました。各者について説明がございましたが、最終的に東書、啓林館というのが選定委員会の方では、意見が出ておりますが、委員の皆様方いかがなものでしょうか。

田中委員：はい、よろしいでしょうか。

新子教育長：はい、田中委員お願いします。

田中委員：説明があつた内容とほぼ同じように感じています。啓林館と東書が学び方からしても学びやすい、論理的な思考も高めるような配列もされているし、またていねいに説明されています。啓林館では、副教材的な算数のとびらや、別冊のシートが良く、東京書籍では、説明が詳しくてていねい、学びのとびら、こういうところなんかに興味、

関心を持って学習できるんじゃないかというところを感じます。復習にも無理なく対応できるんじゃないかと、この2つが私もいいかなと思います。

新子教育長：ありがとうございます。他、いかがでしょうか。

近藤委員：はい、お願いします。

新子教育長：近藤委員お願いします。

近藤委員：東京書籍は説明にもございましたように、5年生も上下巻に分かれていて、算数は本を毎日持ち帰るのであるの、負担が少ないのはいいところです。子どもの興味や関心をひく写真や図が使われています。デジタルコンテンツは操作しやすく、練習問題では答え合わせをしてくれます。シミュレーションや動画などの内容が、充実していて、特に図形は理解しやすくなっています。巻末のおもしろ問題は、算数が好きになってくれそうなきっかけを作ってくれそうでした。啓林館の方はページの構成が見やすく感じます。大事なポイントであるまとめの部分は、字も大きく分かりやすいです。2年生のわくわくプログラミングのデジタルコンテンツは、使いやすくプログラミングについて2年生でも楽しく理解できます。以上です。

新子教育長：はい、ありがとうございます。

西村委員：いいですか。

新子教育長：西村委員、お願いします。

西村委員：はい。つまづきそうな時間と、小3の時間と小5の割合を中心にどんなふうに見えるかとか、流れをちょっと比べてみました。東書は非常に継時的に順序を追って、時間の概念を説明してあって分かりやすいと感じましたし、題材が身近で子どもがイメージしやすいと感じましたが、割合の表現がくらべられる量と、もとにする量というのが、他の教科書がくらべる量となっていたので、根本的に国語が苦手な子には分かりにくいのかな、というのが少し感じたところでした。啓林館は少し難しい問題のように感じましたけれども、学びを活かす演習、生活に結びつける演習が多いように感じましたので、非常に算数が生活の中にどんなふうに使われているのか、ということが分かりやすい教科書だな、と感じました。学校図書は、表紙がまず楽しくて、全体的なイラストが見やすく、時計なんかもととても見やすいと感じました。が、ちょっと文章が多いように感じて、国語力が不足しているお子さんとかにとっては、まずそこで算数としての学習がしんどくなるかなという気がしました。教育出版は先ほどのふり返りのマンガとか挿絵の掲示が非常に分かりやすく、こちらも学んだことを使うイメージのしやすさがありました。弁当をお得に買うにはどうしたらいいか、そういうところがとても工夫されていると感じましたが、先程の文言的なところで比較量と基準量という言い方がされていたので、漢字的にいうと分かりやすいですが、意味を捉えるには難しいように感じました。はい、以上です。

新子教育長：はい、ありがとうございます。

太田委員：はい。

新子教育長：はい、太田委員お願いします。

太田委員：話が重なるところもあるかと思いますが、1者ずつ少し説明させていただきま

す。

日本文教出版は、2年生、3年生、4年生と教科書が上下に分かれているのいいのかなと思ったんですけども、他の教科書と5年生の分数について少し説明をていねいに読ませていただいたところ、やはりちょっと分かりにくいのかな、という風に感じました。

同じく教育出版も分数の説明が他者さんよりもちょっと、5年生の分数の説明が分かりにくくて、教科書もちょっと見にくいのかなと、いう印象を受けました。教育出版さん、2年生の教科書も見た感じの文字が少し小さく感じるかなと、あと1年生も1冊になっているので、まとまっているんですけども、最初は導入の部分では分かれていて、ちょっと大きい教科書の方が学びやすいのかなというのは感じました。

学校図書さんですけども、教科書のサイズが他者さんと少し違いますけども、そこが扱いやすいのか扱いにくいのか、子どもたちにどうなのかなというのは、特徴なのかなと思います。またページ数も多くて、学ぶ量が多いのが特徴なんですけども、少し量が多いのかなと感じました。2年生から4年生、5年生と上下に分かれているのは学ぶ上ではいいのかなと。あと6年生で中学校のかけ橋の別冊があるのも、小中連携を意識して作られてあることは、これはいいのかなと。分数の説明なんかはていねいにされているな、という印象を受けました。

大日本図書さんは先ほどもありましたけれども、最初がA4の大きさで、扱いやすいかなと、2年生から6年生まで全て1冊でまとめられているんですけども、やはり先ほども出ましたけども、上下に分かれていた方が、算数はちょっといろいろ難しいので、教科書が変わる方が新たな学習意欲につながるんじゃないかなというのを少し感じました。教科書のつくりは、学ぶ、考えるって楽しいというような、学ぶ楽しさを意図しているのは、すごくいいなと思います。

あと啓林館さんは、これも1年生の最初がA4なので、扱いやすいですし、2年生から4年生まで上下に分かれているという点、5年生は1冊にまとめられているんですけども、説明がていねいで分数の説明なんかもやはりわかりやすいし、全体的に教科書の文字の配列も啓林館は見やすいなと感じました。補充問題も、もっと練習などにもトライしやすく、答えもやってみたらどこに書いてあるかというのがすぐわかるので、自学自習にとっては啓林館さんなんかもいいのかなと。

東京書籍さんも同じですけども、A4、1年生の最初が見やすくて学びやすい、あとは2年生から5年生までが上下に分かれている、6年生も1冊ですけども教科書がすっきりしていて見やすいと感じました。全体的にやはり、教科書が見やすいというのは学ぶ子どもたちにとっては、やはり見やすいということは大切なことだと思います。あと、5年生の分数もていねいにやはり説明されていますし、分数のたし算の説明なんかも子どもたちが理解しやすくなっているな、と感じました。あと、「こうた」とか「りく」とか登場人物が出てきて、ヒントとか考えを示す、「…」で示すところがあるんですけども、中にはちょっとこのヒントで分かるのかなというのがような「…」もあって、あちこちに考えが飛んでしまわないかなと、ちょっと気になったんですけども、5年生の最大公約数を求める問題を見たときに、りくが「まず1番小さい6の…」と書いてあるんですけど、

1番小さい6の何なのか、というのを思ったり、それなら最後まで説明してくれた方が子どもは分かるかなど、感じたりはしました。そういう箇所も、教科書も全部じゃないけれども、ちょっとあるなど。それは他の教科書にもあると思うんですけども、あと、チャレンジの問題でページ数、ページが示してあって、取り組めるようになっているので、いいんですけども、ちょっと解いてみて、答えがどこにあるかなど、答えを探そうとした時に、巻末のどこにあるのかがちょっとハとかニとかイとか示してあるんですけども、すぐ探しにくいなという印象はちょっとありました。全体を通しては先ほどありましたけれども、東京書籍さんか、啓林館さんなのかなという印象を受けております。以上です。

新子教育長：はい、ありがとうございます。委員さんからもご意見をいただきました。良い部分もたくさんございましたし、問題も当然のことかと思うんですけども、最初から出ていますように、東書、啓林館というところなんかも非常によく見ていただいていたのかなと思うんですけども、なかなかどちらかというのは難しいんですけども、選定委員会で十分話し合ってもらった点と、いまお聞かせをいただいたことからすれば、東京書籍さんかなという風には感じるんですが、ご意見等ございましたらお願いをいたします。啓林館、東書、本当に迷うところではありますが、東京書籍さんでよろしいですか。

委員全員：はい。

新子教育長：はい。それでは算数につきましては東京書籍さんの教科用図書ということで決めさせていただきます。

新子教育長：続きまして、図工をお願いいたします。

大内指導主事：それでは、図画工作について説明いたします。図画工作につきましては、開隆堂、日本文教出版の2者でございます。

まず、「目標、内容の取扱い」についてです。日本文教出版について、3. 4年生下、48、49ページをご覧ください。大阪府の選定資料には「学習のめあてや『特に大切なめあてのヒント』『鑑賞のヒント』が示されて」と書かれています。調査員からは「めあてが細かく記載されている。特に大切なめあてについて、ヒントが大きく書かれている」との報告があがっております。また教科部会からは「作品例が多いので、参考になりやすい」との意見があげられております。開隆堂出版について、3. 4年生下、42、43ページをご覧ください。大阪府の選定資料には「3つのキャラクターによる学習のめあてや作品作りのヒントが示されて」と書かれています。調査員からは「端的にまとめられている。特に大切なめあてには下線があり、分かりやすい」との報告があがっております。

次に「人権の取扱い」についてです。日本文教出版について、3. 4年生下、48、49ページをご覧ください。大阪府の選定資料には「配慮すべき点を『気をつけよう』として示し、用具の安全な使い方や、活動場所の安全を確認することなどを具体的に示している」と書かれています。開隆堂出版について、3. 4年生下、42、43ページをご覧ください。大阪府の選定資料には「配慮すべき点を『かたづけ』として示し、特に安全指導について留意すべきことは、『安全マーク』とともに具体的に示している」と書かれています。また、日本文教出版について5. 6年生下、48、49ページをご覧ください。学



校からは「ゲルニカが掲載されているため、平和学習につながる」との意見があげられております。開隆堂出版について、5. 6年生下、52、53ページをご覧ください。学校からは「東日本大震災をきっかけに制作された作品が取り上げられているのがよい。作品にこめられた思いや願いを感じ取らせる教材として扱える」との意見があげられております。

次に「組織・配列」についてです。日本文教出版について、5. 6年生下、18、19ページをご覧ください。大阪府の選定資料には「他教科との関わりのある題材について、『つながる学び』マークが示されている」と書かれています。教科部会からは「写真が見やすく種類も豊富なため作品のイメージがつきやすい」との意見があげられております。開隆堂出版について、5. 6年生下、36、37ページをご覧ください。大阪府の選定資料には『『あわせて学ぼう』では、他の教科等と関連付けて学習するためのヒントが示されている」と書かれています。教科部会からは「必要な材料がページ左上に書かれていてわかりやすい」という旨の意見があげられております。

次に「学び方の工夫」についてです。大阪府の選定資料によると、日本文教出版の二次元コードによるコンテンツ数は「2, 969」、開隆堂出版の二次元コードによるコンテンツ数は「924」と書かれております。調査員からは、日本文教出版について「作品の紹介数が多いのがよい」との意見があがっております。学校からは開隆堂出版について、「確認できる内容が具体的に書かれているので、二次元コードを読み取る前に取捨選択ができる」との意見があがっております。また、日本文教出版について、5. 6年生下、18、19ページをご覧ください。大阪府の選定資料には、「ほぼすべての表現の題材に鑑賞の活動が例示されており、鑑賞と表現がつながるようにしている」と書かれております。開隆堂出版について、5. 6年生下、36、37、38、39ページをご覧ください。大阪府の選定資料には、「表現と同じ題材を鑑賞で取り上げられており、鑑賞と表現がつながるようにしている」と書かれております。

次に「補充的な学習・発展的な学習」についてです。日本文教出版について、3. 4年生下、56、57ページをご覧ください。調査員からは、「わざの引き出し『絵の具を使ったいろいろな表し方』として、大きく具体的に示されていて活用しやすい」との意見があがっております。開隆堂出版について、3. 4年生下、54～57ページをご覧ください。調査員からは、「各学年の最後に『つながる、ぞうけい』として、他教科とのつながりや図画工作で学校生活を楽しむ具体例があってよい」という旨の意見があがっております。

次に「幼小中一貫教育の観点」についてです。日本文教出版について、1. 2年生上、8～17ページをご覧ください。調査員や学校からは、「『●●スタート』として、鑑賞、絵、立体、工作、造形遊びのスタート教材があり、保・幼の延長線上にあるものばかりで取り掛かりやすい。テーマもはっきりしていて作品例もヒントになる」という旨の意見があがっております。開隆堂出版について、5. 6年生下、66～69ページをご覧ください。調査員や学校からは、「『未来へつながる図画工作』として、図画工作の力がどのようなことに今後つながっていくのかイメージしやすい」との意見があがっております。

最後に、選定委員会の審議について報告します。日本文教出版について、鑑賞活動をとおして道具の使い方を考えさせることができる。また作品の写真が大きく取り上げられていることや二次元コードのコンテンツも含めた参考資料が豊富にあることが授業で活用しやすいとの意見がありました。以上で図画工作についての説明を終わります。

新子教育長：はい、ありがとうございます。開隆堂と日文ですけれどもいかがでしょうか。

田中委員：先程の説明にもあったんですけども、コンテンツの数が日文の方がかなり多いこと、それから金槌とか絵の具の使い方が開隆堂に比べて詳しく分かりやすい表記がされていること、わざの引き出し等の表現が子どもたちにとって興味をもちやすい表記なのではないかなと思います。そう大差ないようには思いますが、そういった点で日文の方がいいと思います。以上です。

新子教育長：はい、ありがとうございます。他、いかがでしょうか。近藤委員、お願いします。

近藤委員：開隆堂なんですが、学習のめあてのところが目につきやすく、見やすいです。一冊一冊の本にタイトルがつけてあり、最初のページにはタイトルの言葉を受けてアーティストの語り掛けがあるのが素敵だと思いました。紹介されているアーティストに男女の偏りが無いのも良かったです。日本文教出版の方は図工の見方のページが美しく見ごたえがあります。巻末の材料と用具の引き出しが充実していました。教科書美術館のページは作品が際立つように整理されていて目を引きます。ゲルニカが見開きで大きくのっているのがいいです。デザイン的に魅力を感じるページがたくさんありました。以上です。

新子教育長：はい、ありがとうございます。西村委員、お願いします。

西村委員：イメージ的に少し違いがあるなと感じました。日文の方は作品を芸術的にイメージさせる感じがあります。もちろんコンテンツも多いですし、ページの中にも色々なコラムがたくさんあって、どこを見たらいいのかわからないような気もしますけれども、まあ図工の教科書はこういう方がいいのかなと感じます。道具の使い方もわかりやすい絵があります。開隆堂さんの方は教科書的というか作品を作り上げるためのステップを使って、教えるなら、もしかしたらこっちの方が教えやすいのかもしれないですけども、図工の教科書として魅力的なものは日文の方がなと私は感じました。

新子教育長：はい、ありがとうございます。太田委員、お願いします。

太田委員：開隆堂さんなんですけれども、最初の1・2年生上の目次のところを見させていただくと1年生の最初にしてはものすごく細かく字が書かれてあるので、もうちょっと芸術的な印象の方がいいのかなと。そういう意味では日文さんの方が出だしのところは明るいイメージがするなという印象を受けました。取り方かと思うんですけども1年生の上で、粘土とか子どもの写真が大きくのっているページなんかでも写真が暗いのかなという印象を受けました。あと子どもの写真が大きくのっていて、作品が子どもの次にのっていて、作品が最初の方がイメージしやすいかなと思ったのと、日本文教出版さんは粘土については「粘土にごちそうを」とかテーマを絞っているので子どもたちにとっては取り組みやすいのかなと。選定委員会や調査員の話にもありましたけれども、

タイトルを「絵スタート」とか「立体スタート」「工作スタート」とかいう形にして取り組みやすい構成になっているなど、1年生の上のところから友だちの絵を見て話そうとか作品を見るとか、鑑賞というところを割と大切にしているので、友だちの作品を見るというのを最初からイメージされているのだなということを感じました。あとカッターの扱いなんかについても日本文教出版さんの方がわかりやすいのかなというふうに感じたので、他のコンセプトなんかは開隆堂さんの方もいいと思いましたけども、全体的には私も日本文教出版さんの教科書の方が、子どもたちにとって学ぶ意欲がわくという印象を受けました。

新子教育長：はい、ありがとうございます。コンテンツ数が、日文さんが2,969点あり、作品数の紹介も多い。開隆堂さんの方が924のコンテンツ。これだけの差があるということも含め、あと日文さんの方が友だちの絵を見る、鑑賞っていうんですかね、作品を見るという点がいいのではないかな等々。教科書的には西村委員も仰っていましたが、開隆堂さんの方がいいけれども芸術的という部分からすれば、日文さんの方が、イメージがわくというんですかね。そういうふうに捉えられるというご意見がございました。2者ですので、いかがでしょうか。お声いただきましたら。

田中委員：日文で。

新子教育長：日文でよろしいですか。

委員全員：はい。

新子教育長：それでは、図画工作につきましては日本文教出版の方で決定とさせていただきます。

新子教育長：続きまして、地図の教科用図書です。野本指導主事、よろしく申し上げます。

野本指導主事：それでは地図について説明いたします。地図につきましては、東京書籍と帝国書院の2者でございます。

まず、「目標、内容の取扱い」についてですが、日本地図の取扱いといたしましては、東京書籍は地域別の地図は地方図を含め、21区分、帝国書院は24区分となっております。次に、世界地図についての取扱いですが、両者とも7区分となっております。大阪府の選定資料には、東書は97ページ「巻末の特設ページでは日本の自然災害について取りあげている」、帝国は125ページ「巻末の特設ページではSDGs等について取りあげている」と書かれております。審議の中では、帝国は50ページには柏原市の大和川のつけかえの絵がついていて「愛着をもつと思う」という意見がございました。

次に「人権の取扱い」についてですが、大阪府の選定資料には、東書は60ページ、62ページに「世界の様々な動物や料理が紹介されており、国際理解について深めることができる」帝国は84ページからの『集まれ！世界の子どもたち』の資料では、それぞれの国の文化が紹介されており、国際理解について深めることができる」と書かれております。学校からは、東書については「全体的に暗いイメージで、読みにくい箇所もある」帝国については「文字・イラストが大きく見やすい」という意見がございました。

次に「発達段階への考慮」についてですが、大阪府の選定資料には、2者とも「3年からの活用に配慮し、地図の仕組みや約束ごとなど地図学習の基本を学ぶページが巻頭に設

けられている」と書かれております。調査員からは東書については「中学年児童にとっては、字も細かく、情報量が多いため、扱いにくいことが想定される」帝国については「文字情報と地図の配色が明確に分かれており、情報を見つけやすくなっている」という報告が上がっております。学校からは帝国は「イラストが多いなど、3年生からでも地図に親しみやすいような工夫がなされている」という意見がございます。審議の中では、帝国は「川の名前や海の名前の字体を変えていて見やすい」帝国は「広域の地図と細かい地図で文字を変え見やすい」という意見がありました。

次に「組織・配列」についてですが、大阪府の選定資料には、2者とも「教科横断的な視点も含め、学習を効果的に進めることができるよう配慮されている」と書かれております。また、東書では77ページ「日本の歴史の中で、どのように世界とかかわっていたかの事例を取りあげ、地理と歴史を関連付けた学習が進められるよう記載されている」と書かれております。帝国では、99ページ「過去の災害、防災の事例を取り上げ、防災マップ作りの学習が進められるよう記載されている」と書かれております。調査員からは東書は「日本から外国、そして資料へと扱いやすいような配列になっている」、帝国は「日本から世界、そして資料へと分かりやすく配列されていると考える」との意見が上がっております。

次に「学び方の工夫」についてですが、大阪府の選定資料には、「2者ともに基本的な地図の読み方が整理されている」と書かれております。東書では10ページ「児童がオリジナルの地図記号を考える学習活動ができるなど、主体的に資料等を活用して学ぶことができる」帝国では11ページ「方位や地図記号、距離の求め方等の技能を活用する学習活動ができるなど、主体的に資料等を活用して学ぶことができる」と記載されております。調査員からは東書は「簡単なワークを掲載しており、児童が地図帳をより身近に感じられるような工夫がある」帝国は「簡単なワークを掲載しており、児童が地図帳をより身近に感じられるような工夫がある」という意見が上がっております。部会からは、東書は「各ページごとに発問されているのが、授業する側として使いやすい」帝国は「文字・イラストが大きく見やすい」という意見がございました。学校からは帝国は「白地図がQRコードでダウンロードできるので、授業準備の短縮が図れる」という意見がございました。

次に「補足的な学習・発展的な学習」についてですが、大阪府の選定資料には2者ともに「社会科の学習内容と関連づけながら活用できるように工夫されている」と記載されております。東書では「デジタルコンテンツでは、地形や土地の利用の様子をイメージしやすいように、ドローンによる動画を視聴することができる」と記載されております。帝国では「デジタルコンテンツでは、47都道府県のデジタル地図を土地の様子、交通、産業、工業など8項目のテーマごとに表示することができる」と記載されております。部会からは、東書は「各ページごとに、発問されているのが印象的である」帝国は「QRコードから、日本の都道府県別に産業などがグラフ化されているので、視覚的に理解を促しやすい」という意見があがっております。学校からは東書は「様々なデータや世界との比較のページは児童の自発的な学習や、興味関心を引くものになっていた」帝国は50ページ「大阪府の拡大地図が載っており、活用しやすい」という意見がございました。

次に「幼少中一貫教育の観点」についてですが、両者ともイラストを多用していて児童が興味を持って閲覧できるように工夫されており、調査員からは2者ともに「基本的な内容を重視することで中学校以降の学習に繋がっていくと考えられる」という意見があがっております。

最後に、選定委員会の審議について、報告いたします。

帝国書院について、「大和川のつけかえ等、柏原のことを扱っており愛着をもつと思う」という意見がありました。また、同じく帝国書院について「川の名前・海の名前の字体を変えていて見やすい」「広域の地図と細かい地図の字体を変えていて見やすい」との意見がありました。

以上で説明を終わります。

新子教育長：はい。ありがとうございます。2者でございますが、前回は柏原の事を取りあげてもらって非常に子ども達に人気であったと聞いております。今回も帝国の方は柏原あるいは大和川のつけかえ等詳しく載っているということで、今の説明からしますと東書、帝国ともそんなに大きく差はないように感じるんですけど、帝国の方が非常に見やすいという所と、あと防災について指導要領の中にもそのような所謳われておりますし、SDGsもそうですし、そういった所が含まれている所が大きいかなと思っておりますがご意見等ございましたらお願いします。田中委員お願いします。

田中委員：教育長がおっしゃった通りかと思えます。どちらも両者とも興味をもたせる編集をされている。地図の見方、見る時には帝国の方が見やすい。関心を持ちやすい。その中で大和川のつけかえとか柏原市のぶどうの絵が入っているとか。それから地図の見方で大仙古墳が身近な柏原市民からすると離れているかもしれないが身近な所に入っているということが地域・地元というか地理に対して関心を子ども達が持ちやすいと思えます。さっきの防災の事も含めて帝国の方がひとつ抜けている思いがしました。

新子教育長：ありがとうございます。他いかがですか。近藤委員お願いします。

近藤委員：私も帝国書院の方は地方の地図でも柏原の地名の表示があつてぶどうの印もありますし、京阪神、近畿地方の地図も充実していて柏原の子が使うにはこちらの方が便利なのかと思えます。

新子教育長：はい。ありがとうございます。西村委員お願いします。

西村委員：私も大方同意見なんですけど。よくこれだけの情報量を。やっぱり帝国さんの方が見やすいと感じます。うまくまとめているなと思えますし、統計資料もすっきりと見やすくしてあって、気温のことや日本とか世界のことの統計の関連付けも非常に上手にされていると思えます。歴史とか防災とも関連づけているし。かと思えば地図マスターで少し地図帳自体を楽しみたいお子さんにもとても有益なものだと感じます。

新子教育長：はい。ありがとうございます。太田委員お願いします。

太田委員：ほぼ同じですが、やはり柏原の記載があるかないかが大きいのかなと思えます。

大和川のこともぶどうのマークも。やはり見やすさとそういう点を考えると帝国書院の地図の方が子どもにとっては使いやすいというように思えます。

新子教育長：ありがとうございます。みなさんのご意見等含めまして、地図の方は帝国と

いう事をお願いします。

委員全員：はい。

新子教育長：はい。ありがとうございます。少し休憩を取りたいと思います。この時計で55分まで休憩をとらせていただきます。

(休憩)

新子教育長：それでは再開させてもらいます。社会について、教科書の採択、大内指導主事をお願いします。

大内指導主事：それでは社会科について説明いたします。社会につきましては、東京書籍、教育出版、日本文教出版の3者でございます。

まず、「目標、内容の取扱い」についてです。3者のうち、東京書籍のみ5、6年生が分冊となっております。調査員からは「児童の持ち運びが軽い反面、後々出てくる内容と初めに出てくる内容とのつながりを教科書で比べることが難しい」という報告が上がっています。日本文教出版「小学社会5」278、279ページをご覧ください。調査員からは「5年生では、環境問題として、柏原市の大和川の『水生生物の観察』の資料や、八尾市や羽曳野市などの近隣の市の様子なども掲載されている」という報告が上がっています。

次に「人権の取扱い」です。教育出版「小学社会5」138、139ページをご覧ください。調査員からは「ユニバーサルデザインの自動車が開発・生産されていることや、障がいの有無や性別の違いなどに関わらず誰もが働きやすい職場を目ざす自動車工場の取り組みが紹介されているなど、様々な立場の人が共に生きる社会の形成に向けて意識を高められるようになってきている」という報告が上がっています。日本文教出版「小学社会6」16、17ページをご覧ください。大阪府の選定資料には「6年の基本的人権の尊重について学習をする単元では、人権問題に対する自治体の取り組みを紹介する中で、SNSやインターネット上で人権がおかされた問題、また本文で『障害者差別解消法』などを取りあげている」と書かれています。

次に「発達段階への考慮」です。東京書籍「新しい社会6歴史編」24ページをご覧ください。学校からは「教科書のまわりに『〇〇してみよう』などの学びのヒントや言葉の説明などがあり、苦手な子にはありがたいと感じた」という意見があります。教育出版「小学社会6」20、21ページをご覧ください。調査員からは「各時間ごとの『問い』が教科書に明記されていて、思考がぶれない工夫がされている。また、質問が『どのように』でほぼ統一されているため、社会科の視点を持つことができる」という報告が上がっていますが、その一方で、部会からは「詳しい内容まで深められる。ついて行ける子に限りがあるように思われる。レベルが高めである」という意見もあります。

次に「組織、配列」についてです。東京書籍「新しい社会3」4ページ及び24ページをご覧ください。調査員からは「巻頭4ページに教科書のつくり、生活科を含む前学年との関連や単元の紹介、最初の単元の途中に『学習の進め方』が掲載されている」という報告が上がっています。日本文教出版「小学社会3」6ページをご覧ください。調査員から

は「柏原市の3・4年生が使用している副読本『わたしたちの柏原市』と、基本的には同じ進め方で展開していくので、地域教材で学習した後の教科書での押さえがしやすい」という報告が上がっています。

次に「学び方の工夫」についてです。東京書籍「新しい社会5上」15ページをご覧ください。部会からは「『まとめる』活動のページに具体的な学習活動が設定されている」という意見があります。日本文教出版「小学社会3」110、111ページをご覧ください。調査員からは「意見を二つ以上出して、その根拠をお互いに話し合い、質問や意見の交換を経るなど深め合い活動を通して、深い学びへ到達する子どものすがたが提示されている」という報告が上がっています。

次に「幼小中一貫教育の観点」についてですが、各者ともに中学校への接続を意識した単元構成となっており、6年生において中学校社会科の内容が取り上げられています。

最後に選定委員会の審議について報告いたします。

選定委員会では、柏原市のこと、大阪万博のことや奈良等、関西のことについて触れている部分が多いこと、また、写真と文字のバランスが良いことと、会話文が見やすいという調査報告の内容から日本文教出版が柏原市の教育にあっているのではないかという意見が出ました。

また、東京書籍について、分冊はふりかえる場面は多くはないので、問題ないとも考えることもできるということと、弥生時代と縄文時代の生活の絵が比較しやすいという趣旨の意見がありました。

以上で、社会科についての説明を終わります。

新子教育長：はい、ありがとうございます。3者にしぼられておりますけれども、いかがでしょうか。

田中委員：よろしいですか。

新子教育長：はい、田中委員お願いします。

田中委員：はい。今の説明の中にもあったんですけども、こちらも先程の地図とよく似ているんですけども、柏原の近くですね、大和川を題材にして八尾・羽曳野の記載があるということと、それから地域教材をやる際に3、4年生の資料にもうまく連携できるというところ。それから、2つの意見を交換してやりとりする中で深い学びへ持っていくと、そういったところを考えると、日文が一步前へ出ているかなと思います。あと、東書、教育出版については、それぞれの良さがあるんですけども、2番手ぐらいかなという風に思います。以上です。

新子教育長：はい、ありがとうございます。近藤委員お願いします。

近藤委員：東京書籍はどの教科もそうなんです、デジタルコンテンツに工夫があって楽しいです。社会ではクイズ形式のものが良くて、特に都道府県カルタが工夫されていました。教科書の方でも県の特徴も一緒に知れるようになっていました。

日本文教出版は近畿の身近な場所を取り上げられているので、子どもにとってはやっぱりわかりやすいと思いました。柏原の大和川も詳しく出ていますし、万博に触れられているところもいいです。災害では阪神大震災のページがあります。周りの大人に体験が聞け

るきっかけになるでしょう。あと、全体的に地図やグラフが見やすいです。

教育出版は、本に出てくる仲間にミゲルや車いすのつむぎが出てくるところがいいです。米作りや報道のでき方等、時系列の表がわかりやすいです。県の学習では、ページをめくって、地図の見比べがしやすいようになっていたり、全体的に資料の見せ方に工夫がありました。まとめのページがわかりやすかったです。以上です。

新子教育長：はい、ありがとうございます。西村委員お願いします。

西村委員：それぞれいいところというか、印象的であったところを述べていきたいと思います。

東書は上下に分かれているのは、軽くていい反面、上が政経、下が歴史っていうのは、別々に持っていく方がいいのか、むしろこれは一緒の方がいいのか、ちょっと分かりかねるところではありました。年表が世界を含んでいてわかりやすかったっていうところと、つかむ、しらべる、まとめるというページが理解しやすいと感じました。子育て支援が政治と関係付けて書いてあって非常に身近な話題がわかりやすかったのと、災害にマイタイムラインの記載があったので、この辺りは実際に使える題材だと感じました。

教育出版は、内容的に詳しい部分が割と多くあったので、美術品として、読み物としておもしろい部分もたくさんありました。

日文さんの方は、巻末で学習のふり返りがあって、次の学年で何をするかっていうのが示してありまして、社会の流れとしてわかりやすい教科書だと感じました。SDGsのシールがあって、活用しきれないかなのと思いつつも、貼るとわかりやすくて子どもたちの意識づけにはなるのかなと思いますし、資料が豊富で配列も工夫されていると思います。キャラが大きすぎず、良いと感じました。キャラのセリフが小さい文字で、括弧で括られているので、本文にかぶらないという点がとても読みやすい教科書だと感じました。以上です。

新子教育長：はい、ありがとうございます。太田委員どうぞ。

太田委員：教育出版さんは、6年生の教科書なんかで身分制度で人口の割合を示しているというような子どもたちの理解が深まるなと思うような点があったりで、工夫されているなという印象は受けました。

あと、話が出ていますけども、東京書籍さんは全体的に3年生の教科書なんかを見ても、内容が精選されていて見やすいなと。5年生、6年生が2冊に分かれているのは特徴で、意図があってだと思うんですけども、6年生なんかは過去の歴史が現在の日本につながっててということを考えると、小学校では教科書が歴史と政治国際編に分かれていることが、必ずしもいいとはちょっと思えないのかなって個人的には思いました。一冊になった方が見直しなんかをする時にはしやすくていいのかなと。

日本文教出版さんは、先程から出ている近畿の姫路、奈良なども出てきますし、大和川出てきますし、やっぱり学ぶことが生活につながるっていうのはすごく大事だと思うんですけども、そういう意味では身近な地名が出てくるっていうことは、すごく子どもたちの学びにとっても大きいという印象を受けましたので、やはり日本文教出版さんの教科書がいいんじゃないかというふうに思いました。



新子教育長：はい、ありがとうございます。3者ともここがだめやとかそういうふうなことではなかったんですけども、東書さんの5、6年生を分冊にしていると、関連性というんですかね、そういった時に同じように子どもに1冊持ってきたらいい形になるうかと、1冊の方がいいんじゃないかっていうご意見があったり。教育出版さんについては、ちょっと内容的にレベルが高いんじゃないかというふうなこともございました。日文さんにつきましては、関西のことが多く取り上げられているっていうことも含め、柏原、大和川のことですね、3、4年生の副読本と関連付けられているっていうところが大きいかなということも聞かれましたので、日文さんの方にとと思いますが、いかがでしょうか、よろしいでしょうか。

委員全員：はい。

新子教育長：はい、それでは社会は日文でお願いします。続きまして、家庭について、西村指導主事、お願いいたします。

西村指導主事：それでは、家庭科について説明いたします。家庭科につきましては、東京書籍、開隆堂の2者でございます。まず、「目標・内容の取扱い」についてです。

東京書籍の12ページから19ページをご覧ください。こちら12ページから19ページにかけて、「家庭科学習の導入としてわかりやすい」との意見が部会・学校からあがっています。

次に「人権の取扱い」についてです。大阪府の選定資料には、両者とも「人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われている」とあります。調査員からは両者ともに、挿絵について「男女どちらもかかれていたり」と、性別への配慮についての報告があがっています。

次に「発達段階への考慮」です。大阪府の選定資料には、両者とも「文章の記述や分量について、児童の発達段階を考慮した内容となっている」とあります。学校から「大切なことば（漢字）にルビが付いていて、配慮の必要な児童にもわかりやすい」との意見が両者ともにありました。また、調査員からは東京書籍において「段階をふんで学習できる並びになっている」という報告があがっています。

次に「組織・配列」についてです。大阪府の選定資料には、両者とも「教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている」とあります。つづけて、東京書籍では「例えば、夏と冬の住まい方、衣服の着方・手入れについては、同一単元で、夏のくらしと涼しい衣服の着方や手入れ、冬のくらしと温かい衣服の着方を学習する」というように、衣生活と住生活を総合的にとらえ、学習を発展させていくよう工夫されている」と書かれています。調査員からも、東京書籍では「暮らし方のことについて、夏、冬と連続して6年生で学習するようになっている」との報告があげられています。

一方、開隆堂では大阪府の選定資料に「例えば、夏と冬の住まい方、衣服の着方・手入れについては、5年生では冬の住まい方と衣服の着方の単元、6年生では夏の住まい方と衣服の手入れの単元を学習し、衣生活と住生活の学習をスパイラルで積み重ねていくよう工夫されている」と書かれています。調査員からも開隆堂では「暮らし方のことで、5、6年生と2学年にわたって学習するようになっている」との報告が挙げられています。ま

た、学校からは東京書籍は「学習の流れがわかりやすい」「6年の最後が家庭地域への感謝の単元できれいにまとまっている感じがある」開隆堂は「学習のめあてがわかりやすい」との意見があげられていました。

次に「学び方の工夫」についてです。実践的・体験的な活動につながる点に関して調査員、部会や学校から様々な意見があげられていました。まず、東京書籍には「巻頭の『いつも確かめよう』に実習をする時に気をつけなければならないことがまとめられ、すぐに確認しやすい」同じく「巻末の『いつも確かめよう』には調理、裁縫の基本手順が拡大写真で見やすく、子どもにとってもいつでも見直すことができる」「写真、資料が豊富」「写真が大きくてわかりやすい」「2つ穴ボタンの付け方がイラストではなく、写真が使われていて分かりやすい」「動画などが見れるようになっていて学びやすい」などの意見があり、中には複数から挙げられているものもありました。次に、開隆堂ですが「裏表紙に切り方や定規が載っているのが良い」また、30ページ、31ページをご覧ください。「整理・整とんの手順に写真が使われていて分かりやすい」「作業工程がカラーになっていて分かりやすい」さらに、67ページをご覧ください。こちらに示されている「衣服のはたらかきがわかりやすい」などの意見がありました。

次に「補充的な学習・発展的な学習」についてです。東京書籍では「日本の伝統についての紹介が各ページにあり、国語科や社会科の学習と関連していてよい」との意見が学校からありました。見てみますと、例えば18ページの下をご覧ください。日本の伝統コーナーに「茶つみ・お茶作り体験」のことが書かれています。また、27ページ右上をご覧ください。日本の伝統コーナーがありますがその左横にある「(盛り付けでおもてなし)」に関連して「日本の食器」について掲載されています。開隆堂では「基本作業についての動画が多く、わかりやすい」「発展的な学習が多くっており、それについての動画も用意されているので、家庭でもチャレンジしやすい」との意見が学校からあげられていました。

最後に選定委員会の審議について報告いたします。選定委員会では、調査報告の内容及び「ガスコンロの使い方が大きくて見やすい」「比較的つまずきの多いミシンの使い方について、各部分の名前、使い方の各部分がクローズアップされていてわかりやすい」との協議内容から、東京書籍が柏原の教育にあっているのではないかという意見が出ました。また、開隆堂は「実習手順が見やすい」「背景色が色分けされ工夫されている」「左から右へと横に流れるように記述されている。」といった意見がありました。以上で家庭科についての説明を終わります。

田中委員：東京書籍の巻頭の成長の記録が記入式になっているのがいいかなと思います。それから、いつも確かめようというところで、整理がされてわかりやすいと思います。開隆堂の方は、できたかなというチェックできるようなところがあって、そこは、わかりやすいかなと思うんですけど、全体みると、やはり東京書籍の方が使いやすいかなという印象を持っています。

新子教育長：はい、ありがとうございます。はい、近藤委員お願いします。

近藤委員：東京書籍はガスコンロの使い方に、不完全燃焼の時の炎の写真がありました。

I Hの家庭もあり安全に関わることで、知る機会があるのはありがたいです。夏休みワクワクチャレンジというところは夏の宿題のヒントにもなりそうです。整理整頓の学習が年末くらいになるので、実際に取り組みやすそうです。ミシンの図が大きく、わかりやすいです。「生活の課題と実践」の題が生活を変えるチャンスとなっていて、やってみようという気になります。開隆堂は緑色のじゃがいもの写真と注意がありました。知っておくべき大事なことです。野菜やいものゆで方のポイントの図が、覚えやすくいいです。料理や作業の行程の表示が、背景が色付きでわかりやすいです。裏表紙に野菜の切り方やものさしがついているのが、実習の時に役立ちそうです。以上です。

新子教育長：はいありがとうございます。西村委員お願いします。

西村委員：開隆堂さんの方は、一つひとつの説明が丁寧で、例えば、調理するうえでも、調理計画の立て方で、一度に主食と副食を作るときの流れが図で説明してあったり、イメージを生活と結びつけている所が随所に見られたと思いますし、それが、一方で、そこが難しい面でもあって、そこまでできない子も多いと思いますので、生活と結びつけるうえでの、イメージのしやすさと、実際の実行のしにくさというところらへんは両方あるように感じました。

東書の方は、全体的に写真がわかりやすく、情報も多いと感じました。巻末の写真も分かりやすく、あと、住居の夏の過ごし方、冬の過ごし方という、最近、猛暑の時の注意の仕方であるとか、そこから環境問題であるとか、家庭科と社会を非常に結び付けているなどというふうに感じました。とても良い教科書と思いました。

新子教育長：はい、ありがとうございます。太田委員、お願いいたします。

太田委員：東京書籍さんですけども、「まかせてね、今日の調理」のように、料理を作りたいくなるようなタイトルを工夫されてるな、という印象を受けました。あと、ステップ1、2、3という「みつめよう」「計画しよう」「実践しよう」「生活にいかそう」というような構成は、すごくすっきりしていて、意欲につながり、学びやすいのかなというふうに思います。

どちらの教科書もそうですが、QRコードが同じ場所にあるので、QRコードが読み取りやすいようにされてるなあと。東京書籍さんは5年生と6年生で学ぶことが、よく整理されてると。あと、調査員さんの報告にもあったんですけども、出だしの「家庭科室を探検しよう」というそういうページがあるんですけども、実際に家庭科室を探検できるのかなという、ちょっと、子どもたちが、それぞれ自由勝手に家庭科室を探検して、包丁出したりということは、現実的には難しいのではないかなという風なことを思いながら、この教科書上で取り扱うのであれば問題ないんですけども、っていうのはちょっと思いました。

あと、開隆堂さんの方ですけども、両方同じ内容なので、「青菜のおひたし」なんか載ってるんですけども、私は「青菜のおひたし」を両方比べると、開隆堂さんの方が、「青菜のおひたし」の作り方なんかは見やすいな、という印象を受けました。

あと、日本の地域での食文化の違いが、開隆堂さんの57ページに載ってたんですけども、東京書籍さんのは巻末に載ってるんですけども、間に入れた方がちょっと子どもたち

は興味がわくのかなあと見てて思いました。実習に役立つワンポイントも、これ最後に開隆堂さん148ページから最後に載せてるんですけども、わかりやすいのかなと。

最後の方にあるんですけども、開隆堂さんは中学へのつながりを意識した内容で、キャリアでつなぐ持続可能な未来の紹介というのが、開隆堂さんの134～138、最後の方にあるんですけども、中学校とのつながりとか意識して教科書作られてるのかなと。

報告にもありましたけれども、背表紙にもものさしや写真を載せて活用してるというのが良いと思いました。左利きの説明なんかはどちらの教科書にも、場所は違いますけれども載ってるので、遜色ないのかな。あと、管理栄養士さんが、男性になっているのも、ちょっと意図して男性を開隆堂さんは載せてはるのかなと、そういうところが配慮されているのかなというのはちょっと感じました。両方の教科書それほど変わらないのかなと思えますけれども、個人的には開隆堂さんもいいかなというのはちょっと思いましたけど。

新子教育長：はい、ありがとうございます。ご意、いただく中では、どちらも難点的な部分はないんですけど、どうしましょう。ご意見いただけたら。なかなか難しいですね。もう、多数決にしましょうか。

学校現場から出てるご意見というんですかね。選定委員会も含めて、研究部会などの意見的には、東書さんの方がいいというのは多かったです。選定委員会の中でも東書さんということになってるんですけども。今、皆さんのご意見聞いてたら、そんなに大きく変わりはないかなと思いましたんで。現場の意見ということも含めて、そしたら、東京書籍さんでよろしいでしょうか。

委員全員：はい。

新子教育長：はい。ありがとうございます。そしたら、家庭は東書さんでお願いします。続きまして、音楽を政塾指導主事からお願いします。

政塾指導主事：それでは音楽について説明いたします。音楽につきましては、教育芸術社と教育出版の2者でございます。

まず、「目標・内容の取扱い」についてですが、2者とも音楽科の目標達成のための適切な内容になっており、題材や教材の内容が明確に示されております。教育芸術社は、6年生11ページ、53ページをご覧ください。その他、多くのページで「見つけるー考えるー歌う・演奏するの部分ですが学習のプロセスが明記されていて見通しが持ちやすい」と調査員及び教科部会から意見があがっております。教育出版は、6年生15ページ以降をご覧ください。それぞれ右上の部分に「音楽のもと」という形で学習のめあてが明記されており分かりやすいと意見が教科部会及び学校からあがっております。

次に、「人権の取扱い」ですが、2者とも選曲、編曲、歌詞等は人権を尊重する観点から適切に示されております。教育芸術社の6年生の25ページをご覧ください。「著作権についての取り扱い大切な学びである。」という意見が調査員からあがっております。また、児童のイラストに多様な人種が感じられる。との意見も調査員からあがっております。教育出版には、「全学年に手話を使った歌が掲載されている」と調査員からあがっております。

次に、「発達段階の考慮」ですが、2者とも児童の発達段階を考慮した内容になってお

ります。教育芸術社の各学年教科書最後の部分をご覧ください。振り返りのページとして1年間の学習内容が概観できるよう考慮されている」と大阪府の選定資料から上がっております。教育出版は、「高学年の歌唱教材曲が子どもの興味を引きそうなものが多く掲載されているように感じている」と教科部会と学校からあがっております。また、迫力のある写真や美しい情景の写真が多く歌詞の内容や背景をイメージしやすく分かりやすいと調査員からあがっております

次に「組織、配列」ですが、2者とも各学年の目標や内容を踏まえて、各教科等の学習に関連した教材が教科等横断的な視点も含め配列されるよう配慮されております。教育芸術社は、「辞書のように学習内容ごとに色別に分けられていてわかりやすい」と調査員と教科部会と学校からあがっております。教育出版は、「ページの端に、学習内容によって色分けされていてわかりやすい」また「感じたこと学んだことなどのメモを書き込める欄が多くある」と教科部会と学校からあがっております。「楽譜マスターというコーナーを設け、音符や休符、記号などを紹介する箇所が統一されていたり、共通したマークを用いたりすることで学習に見通しを持ちやすくなるような構成となっている」と大阪府選定資料に記載されております。

次に「学び方の工夫」ですが、2者とも、聴き取り感受したことを言葉や演奏で表現し、さらに、個から集団への学びへと広げていけるように設定されている」と大阪府の選定資料に書かれております。教育芸術社は、「QRコードを開くと、指導の補助となるようなものが多く収められている。また、タブレットで和音作りが簡単に出来る。」と調査員・教科部会及び学校からあがっております。教育出版は、5年16ページ～17ページご覧下さい。「和音の働きについて分かりやすく載せている」と調査員及び学校からあがっております。またこちらもICT機器を活用し、学習をサポートするコンテンツを二次元コードで読み取って閲覧できると教科部会及び学校からあがっております。

次に「補充的な学習・発展的な学習」ですが、2者とも学習した内容を確実に習得できるよう、学習の内容や家庭などを振り返ったり学んだことを生活に生かしたりすることができるよう配慮されております。また音楽と社会的事象を関連付けるコラムや作詞・作曲家、演奏者の思いも取りあげられております。教育芸術社は、高学年の巻頭をご覧ください。この部分の読み物が充実しており「音楽について幅広く深く考える学習につながるよう示されている」という意見と「6年76ページ多様な音楽が取り上げられており興味関心につながるよう示されている」という意見が調査員からあがっております。教育出版は、最後の見開きのページに、記号や指遣いなどがまとまっていて見やすいという意見が調査員と教科部会からあがっております。2年70ページをご覧ください。「九九の歌が載っているのは、教科横断的な学びが期待できる」また「6年合唱曲（意欲的に取り組める曲）がたくさん載っている」という意見も教科部会からあがっております。

次に「幼小中一貫教育の観点」ですが、2者とも就学前の学習との関連に配慮したスタートとなっております。教育出版の6年74ページをご覧ください。英語の歌詞の曲も掲載されており中学校につながるという趣旨の意見が調査員からあがっております。

最後に選定委員会の審議について報告いたします。選定委員会では写真が多いのがいい。

日本の歌は歌詞が難しいので写真から情景をイメージして歌わすのにいい。また子どもの興味を引きそうな曲が多く掲載され副読本がなくても音楽会等まかなえそうという調査報告の内容から教育出版が柏原市の教育にあっているのではないかという意見が出ました。また、教育芸術社は巻末のふりかえり・まとめの部分が大変分かりやすいとの趣旨の意見がありました。説明は以上でございます。

新子教育長：はい、大きく差がなかったようには感じたんですけども、皆さんご意見どうでしょうか。

田中委員：はい、いいですか。

新子教育長：はい、田中委員お願いします。

田中委員：学習マップをみて特に低学年、教育出版ですかね、とつつきやすいんじゃないかなと思います。それから、先程説明ありました、九九の音楽ですか、なかなか面白いなと思いました。そんな意味で教育出版かなと思いました。以上です。

新子教育長：はい、近藤委員お願いします。

近藤委員：教育出版は、使われているイラストや写真が綺麗です。表紙が特にいいです。リコーダーの習い始めが楽しく練習できるようになっています。5年生の最初の方に変声期について書かれていました。その時期の具体的の向き合い方が優しく書かれていて、そこで悩む子もいますので安心します。全校合唱として2曲、全学年に載せられているのがいいです。教育芸術社の方は、楽器の紹介のページが大きくて詳しいところまでよく分かります。ふりかえりのページの部分もくわしいです。以上です。

新子教育長：はい、ありがとうございます。はい、西村委員お願いします。

西村委員：はい、比べるのは非常に難しいと感じました。教育出版の方は、写真や絵が多くて大きめで音楽との結びつきがイメージしやすいと感じましたし、歌自体興味を引きそうなものが多いのかなと思いました。教育芸術社の方は少し字が小さめで字が多いように思いましたが、音楽のもとという形の学習のめあてとか色分けという点では今何を学習しているのか分かりやすいと感じました。

新子教育長：はい、ありがとうございます。はい、太田委員お願いします。

太田委員：教育芸術社ですけども、2年生の最初の方に世界の音楽が出てきたり、踊りも出てくるので世界を意識したそういう教科書作りをしているのかなと。3年生は見開きにリコーダーの写真があつてこれも興味がわくようになっているかな、地域なんかにあるお祭りの音楽も教育芸術社にはあつて伝統音楽の内容が充実している。音楽ばかりではなくて興味が持てるようなそんな情報も載っているんで、6年生の先程あつた76ページ～81ページなんかは鑑賞資料も音楽に関する学習意欲を向上させる内容かなと感じました。見開きの音楽の木のイラストが何年生かあるんですけどそれはなんか分かりにくいなと思いました。子ども達にも伝わりにくいかかと、見開きの教育芸術社の方、あと6年生でしたか教育芸術社77ページ、先程も出ました、まあこういうミュージカルであったり、ゲームの音楽なんか色々紹介されてるんで身近に感じて学ぶ意欲の向上につながるかなと思います。

教育出版ですけども、学びに向かう力を育むということで、学習のめあてなんかは分か

りやすく入っている。あと1年生から英語の歌が入っていたりと興味を持つきっかけとなるので他教科との連携が感じられる。また3年生、教育出版も3年生ですけども、世界の友達と歌で仲良くなろうなど国際感覚を養うなどいいのかなと思いました。それから3年生で物語の音楽が出てくるんですけどもこれもミュージカルなどとか興味を持つきっかけになっていいのかな、まあと全体を通してですけどもやはり教育出版の方が写真が大胆に使われていて歌うのにすごくイメージしやすいのではないかなと思います。あと、5年生6年生の見開き、音楽に関係する写真とか発言が載っているという点も子ども達が音楽が身近に感じるひとつになるのかなという印象を受けました。以上です。

新子教育長：ありがとうございます。なかなか決めきれないというか。これ難しいなという意見はなかったんですけども、どうでしょうか。

太田委員：6年の教科書比較してみたりすると、やはり教育出版の方が写真が多くて歌のイメージがしやすくなっているのかな、情報量も適切なのかなと少し感じました。両方特徴あるんですけども、まあ教育出版の方がいいのかなという印象を受けました。

近藤委員：教育出版の方が載せられている音楽がジブリのが多かったり、子どもが是非やってみたいという音楽が選ばれていたり。

新子教育長：はい、分かりました。皆さんのご意見、教育出版が教育芸術社より多くございましたので教育出版の方に決定します。

委員全員：はい。

新子教育長：続きまして道徳でございます。西村指導主事、お願いします。

西村指導主事：はい、それでは道徳について説明いたします。道徳につきましては、東京書籍、教育出版、光村図書、日本文教出版、光文書院、学研の6者でございます。

まず、「目標、内容の取扱い」についてです。光村図書について調査員や部会から「道徳的に考えを深めやすい教材が選ばれている」という趣旨の報告があり、取り扱われている教材の内容について肯定的な意見が出ていました。また、学研の1年生95ページをご覧ください。選定委員会において、この資料に限りませんが、各資料の後の「考えよう」がシンプルでよいという意見がありました。

次に「人権の取扱い」についてです。教育出版について調査員から「人権にかかわる教材が分かりやすく、経験の浅い教員も扱いやすい」との報告があがっています。また、教育出版6年生の28ページには、いじめ関連の教材として「友達だからこそ」という教材がありますが、その教材の後ろの37ページに「広い海へ出よう」という補助教材がついている、というふうに、いじめ・情報モラルについての教材とその補助教材がセットで掲載されているのが教育出版だけでなく、東京書籍、光村図書、日本文教出版の4者で見られるとの意見が学校から出ていました。

次に「発達段階への考慮」です。東京書籍において、調査員からは、「発達段階に応じた教材や人物を扱っている。」また、挿絵についての意見もありました。東京書籍5年生50ページをご覧ください。学校からは「柔らかなイメージの挿絵が多く、子どもの学びの支援に繋がりと考える」との意見が出ており、同様の内容が選定委員会においても触れられていました。学研において、「短い文章の教材が多く、読みやすい」との意見

や、「絵や写真が多く、子どもが親しみやすそう」との意見もありました。

次に「組織・配列」についてです。大阪府の選定資料では「各学年とも、教材が4つの視点でバランスよく組織・配列されている。」と書かれていました。調査員からの報告でも全者で「児童の発達時期に合わせて教材が選ばれている」とありました。

次に「学び方の工夫」についてです。東京書籍の3年生以上の教科書を見ると、各教材の最後にある「つながる 広がる」というところにQRコードが添えられているところがあります。教材に関係のある内容の動画などが見られようになっていますが、調査員からは「デジタルコンテンツの活用を意識した工夫が見られる」との報告がありました。また、光村図書4年生の10ページの下をご覧ください。「道徳の学び方」が示されています。3年生以上の一つ目の教材にだけ、このように「道徳の学び方」が示されていますが「発問の進め方など丁寧に分かりやすく工夫している」と調査員からの報告がありました。一方で選定委員会において「国語的な要素が強いのではないか」との意見が出ていました。次に、光文書院ですが、各教材の最後に「かんがえよう・まとめよう・ひろげよう」の記載がございます。例えば3年生の97ページをご覧ください。調査員からは「教師にとっても、児童にとっても考えやすいように構成されている」との報告がありました。次に、日本文教出版ですが、部会から「題名の下に登場人物が絵で載っており、児童が話の（物語など）内容が理解しやすいと感じた」との意見がありました。その他日本文教出版だけに別冊の道徳ノートがついていましたが、そのことについての意見もいくつか見られました。一つの学校からの、「道徳ノートがあり児童がこれまでの授業を振り返りやすい」と肯定的な意見がある一方で、「道徳ノートがついており、使いやすいような、使いにくいような」「道徳ノートは活用しにくそうだと感じる」「低学年は道徳ノートのマス目にリーダー線がほしい」「道徳ノートが付属しているが、市内では各校が振り返りシートなどを使用しているため、ノートは使いにくい。」といった使いにくさについて触れられた意見が部会、学校や調査員から多数あげられていました。

次に「補充的な学習・発展的な学習」についてです。大阪府の選定資料では、全者に、学んだことをさらに深く心にとどめたり、これからへの思いや課題について考えたりすることができるような配慮がなされている。と書かれています。

最後に選定委員会の審議についてのまとめを報告いたします。選定委員会では「シンプルで使いやすい資料が多い」「QRコードにある資料の朗読では1～2年生は紙芝居形式、3～6年生はスライドショー形式で年代に合わせた使い方ができる」「授業者にとっては、やり方をしぼられずに授業がしやすそう」などの調査報告および選定委員の調査内容から、東京書籍が柏原市の教育にあっているのではないかという意見が出ました。

また、光文書院について、「資料が見やすい」「教科との関わりだけでなく、キャリア等との関連があり現代的である」との意見がありました。以上で道徳についての説明を終わります。

新子教育長：はい、ありがとうございます。選定委員会では東書ということなんですけれども、6者の中からということなんです、ご意見いただけたらと思います。

田中委員：今、ありました東書と光文とですかね。東書は今おっしゃったとおり、本当に



わかりやすく、資料も学年に沿って、QRコードですね、年代に合わせた使い方ができるところ、柔らかいイメージというところとか、いいかなという風に思います。で、振り返りやすい構成をされていると。光文の方も、まとめよう、広げよう、とか、考えよう、とかいうことで、付録なんかもうまく使えるようによくできてるかなと思います。それで、もう1か所、光村はね、国語的な要素が強いことで、内容的にはわかりやすかったかな、というふうには思うんですけども。ですから、一番が東書で、次が光文と光村が同じくらいかなという風に思います。

新子教育長：はい。他にご意見ございますか。

近藤委員：はい。いいですか。

新子教育長：はい、近藤委員お願いします。

近藤委員：学研が、文が短くて本が薄めなところがいいと思いました。題名の下につかみの言葉のようなフレーズがあって、興味がわくようになっていました。東京書籍は、いじめについての題材に、「いじめについて考えよう」と大きく書かれたページがあるのが印象づいていいです。使われている写真にきれいなものが多かったです。情報モラルのページが、子どもが「ある、ある」と思えるような今どき感があって、充実していました。どの学年も夏休み前ぐらいに学習するので、時期としてもいいと思いました。光文書院は、説明にもあったように、題材の後のかんがえよう、まとめよう、広げよう、が、分かりやすいと思いました。へこんでも立ち直るというページがあり、つらいときに自分を客観的に見る力がついて、ためになりそうだと思います。以上です。

新子教育長：はい、ありがとうございます。

西村委員：はい。

新子教育長：西村委員お願いします。

西村委員：それぞれ、長所短所あるなと感じましたけれども、主に、東書と光文さんと光村さんを見ながら、他のと比べてみました。光文さんは、振り返りの考えよう、まとめよう、広げよう、が、わかりやすいのですけれども、まとめようのところが、やや、ちょっと誘導的かなという風にも感じました。光村さんは、国語的ともいえますけれども、案外、漫画なども多くて、国語的にならないように努力されてるのかなという風にも感じました。始めの目次と20の扉というのもイラストがあってわかりやすかったと思います。学研さんは余白が多くて、これがかえって見やすく、誘導的な文言が少ないのも、先生が指導するという点では、いろいろ幅広く見れるのかなという風に思いました。東書さんは、吹き出しのところ、振り返りが吹き出しになっていて、これが、むしろ誘導的というよりはポイントが絞ってあって、そこから、各子どもたちが、いろんなことが考えられるように思いました。あと、QRコードが紙芝居形式であったりスライドショー形式というのは、道德のテレビを昔見たようなことをちょっと思い出して、画像的な点でも使いやすいように、一番思いました。以上です。

新子教育長：はい、ありがとうございます。太田委員お願いします。

太田委員：ひと通り、全教科書を見たんですけども。学研さんですけども、表紙の裏なんかの写真と言葉がすごく印象に残って、道德を学ぶことへのワクワク感が、すごく、

出てくるなという風に思いました。それで写真をうまく取り入れて、写真やイラストで、より、道徳に興味を持てるように工夫されてるのかな。6年生で会話のゆくえとというところが出てくるんですけども、現実にも起こりえるような内容で、子どもたちが興味をもちやすい内容だなと感じました。

光文書院さんですけれども、1年生の始めの内容がちょっと細かくて、1年生の最初にとってわかりづらいかなという印象を受けます。文字も全体的にちょっと小さくて読みづらくないかな。あと、目次を読んだ時に、何について書かれているのかがパッとみて教材の内容がわかりにくいので、教員は、目次ごとにやっていくわけじゃなくて、時々、飛ばしながら色々組み立てて、担任とか、授業者なりに授業を組み立てていくけれども、その時に、どの教材にするかちょっと戸惑いが出てくる可能性があるかなと感じました。6年生情報モラルの内容、扱っておられるんですけども、スマホの使用時間についての内容とか有効活用の内容なので、使う時間と、もう少しSNSでのトラブルについての内容なんか載っててもいいのかなと感じました。あと、学びの足あとがあって、振り返りがしやすくなって、発問が教科書にたくさん載ってて参考になるんですけども、発問なんかは、教員がやっぱり考えて、子どもたちに投げかけていくときに、あまりたくさん載ってると、この、教員の裁量の幅が狭まる可能性があると思います。

教育出版さんですけれども、3年生の教科書なんか、他と見比べると、詩や漫画、イラスト、写真、バリエーションが全体的に教育出版さんは少ないのかなと感じました。あと、6年生の情報モラルでも、プライバシーの侵害についての内容なんで、もう少し詳しく取り上げてもいいのかなと思います。心に残った教材を書く欄があるんですけども、全て書けるわけじゃないので、結局そこじゃなくて、ワークシートに書くことになるのかなという風に思いました。

東京書籍さんですけれども、1年生の教科書なんか見ただけでも、登場人物のイラストとかにすごく多様性を感じますし、表紙の裏の詩や言葉が、端的で子どもたちにとってはすごくわかりやすいかなと思います。6年生、先ほど出ました、SNSについても載ってるんですけども、コロナによる間違った社会制限の問題で、情報モラルにつながっていく内容は、とても大切で、考えさせる内容になってるなとよく理解できるんですけども、ちょっと、出てくる言葉が難しい言葉が載ってて、私たちも知らないような「エコーチェンバー」とか「フィルターバブル」とか「インフォデミック」とか、小学生で必要なのかなと思いつながりながら見ていました。全体的には写真やイラストをうまく取り入れて、子どもたちの道徳の時間に興味をわく内容になっているのかなと。子どもが影響を受けやすい人物についての内容も東京書籍さんは充実してるかなと思います。タブレットを見た時に「こころメーター」が使えるというのがタブレットにあるんですけども、子どもたちにも興味をわくかなと、それを思いました。学年によっては、教材の内容が文章だけじゃなくて、やっぱり、イラスト・写真をうまく使って、取り組みやすい内容になっていると思います。

光村図書さんですけれども、1年生の途中で世界の子どもの様子が出て来るんですけども、国際的な多様性に配慮されているなど、早い段階でそういうことも意識されてるなと感じました。2年生でちょっと出てくる、「伝え合おう」という内容なんですけれども

少し文字が小さくて読みづらいと思いました。すべての学年で学びの記録がついてるので自分が学習したことの振り返りがしやすいのだろうなど。情報と向き合う、同じ、「気に入らなかった写真」という内容があるんですけども、よくありがちな内容を、漫画でこれは表しているんですけども、分かりやすく取り上げている事なんかは、子どもたちに考えさせる内容になっているので、いい取り上げ方だなと思いました。まあ、国語的っていう話が出ましたけども、やっぱり、全体的にはちょっと、光村図書は、読み物教材が多いのかなと、そこから考えさせる内容が多いのかなというのは感じました。

日本文教出版さんですけども、これは道德ノートが付属でついてくるっていうのが先ほどから出てる特徴だと思うんですけど、この活用の学年とか担任によって変わってくるので、教員の捉え方かなとこの、道德ノートの使い方は、と思いました。これも1年生で、世界の人たちは、っていう教材が出て来るんですけども、学年にいる外国籍の子どもたちも増えているので理解促進に早い段階でつながるという風に思いました。周りの人を大切にする力、自分を周りの人を大切にする力を育みますっていうのは、日本文教出版さんの趣旨はすごくいいし、自己肯定感を高める内容、教材がたくさんあるかなと思います。情報モラルの内容は、少し物足りないなというのは、他と比べると感じました。あと、写真やイラストの載せ方も、ちょっとほかの教科書よりも単調な印象を受けたので、光文書院の話が出てましたけれども、私は東京書籍さんか、光村図書さんが、教科書としては扱いやすいのかなという印象を受けました。以上です。

新子教育長：はい、ありがとうございます。ご意見いただきまして、選定委員会の方では東書さんということで、出ておりましたけれども、皆さんのご意見聞かせていただいても、比較的シンプルで使いやすい、あるいは写真やイラストや挿絵が美しい、あと振り返りについても、しっかりとしたポイントが絞られておるという風なところが出ましたし、他のところに関しましては、まとめる部分が誘導的な形で、考えさせる、それぞれの思いというんですかね、そういったところが、いってるところへいってしまったりするのかなと感じましたし、東京書籍さんでよろしいですか。

委員全員：はい。

新子教育長：はい。では、道德は東京書籍さんでお願いします。本日予定しておりました教科について、終わりました。このまま引き続き、8月2日に予備日をとっておりますので、改めて8月2日、同じく1時30分から、場所もここでございます。ご予約をお願いいたします。これで第7回定例教育委員会会議を閉会いたします。

本教育委員会会議の議事の経過に相違ないことを証するためにここに署名する。

令和 年 月 日

柏原市教育委員